

アジア太平洋3R推進フォーラム第7回会合 議長サマリー(概要)

1. 全般

2016年11月2日～4日の間、オーストラリアのアデレード市においてオーストラリア政府、南オーストラリア州政府、オーストラリア連邦科学産業研究機構(CSIRO)、日本国環境省、国連地域開発センター(UNCRD)によって、アジア太平洋3R推進フォーラム第7回会合が共同開催された。

南オーストラリア州持続可能性・環境・保全省のイアン・ハンター大臣が議長を務め、「持続可能な開発2030アジェンダのための3Rと資源効率性の進歩」を全体テーマに議論を行った。

本フォーラムは、スマートで、レジリエントで、包含的で住みよい都市を実現する上での3Rと資源効率性の役割についての議論を含め、SDGsを達成する上で3Rと資源効率性に係る取組がどのように進歩できるかという点において政策的、科学的洞察を得るとともに、アジア太平洋地域における循環経済的發展のために、3R及び資源循環を推進や「ハノイ3R宣言」の実効的な実施に向けて、様々な協力的モデルやパートナーシップを示すこと等のために、民間やビジネスセクターへの奨励することも目的とした。

本フォーラムは、国連環境計画国際環境技術センター(UNEP-IETC)、国連アジア太平洋経済社会委員会(UN ESCAP)、太平洋地域環境計画事務局(SPREP)、地球環境戦略研究機関(IGES)、日本国国際協力機構(JICA) J-PRISMといった様々な国際機関の支援協力を受けて開催された。

本フォーラムには、41カ国から、政府閣僚、国際機関、研究機関、NGO、民間企業の代表を含む350人以上の参加者を得た。

2. 会議

開会式では、ジェイ・ウェザリル南オーストラリア州政府首相が歓迎の挨拶を行い、引き続き、伊藤忠彦日本国環境副大臣、高瀬千賀子 UNCRD 所長、イアン・ハンター南オーストラリア州持続可能性・環境・保全省大臣、アレックス・ウォンハンス CSIRO 常任理事が開会挨拶を行った。

会合では、以下の内容等について、参加者から発表を行うとともに、議論を行った。

- ・SDGsに向けた3Rの貢献～持続可能な開発2030アジェンダにおける政策と科学的な洞察～
- ・強靱な都市と社会に向けた3Rと資源効率性～SDGsに向けた示唆～

- ・地域開発のための地方の資源と廃棄物の管理の基礎としての3R
- ・3R技術と実践の進化～民間部門のイニシアチブ～
- ・資源効率性に向けた中小企業のグリーン化
- ・ハノイ3R宣言の実施に関する各国の主な実績と取組
- ・3Rのための自治体間のネットワークと協力
- ・有害な化学品と廃棄物の最小化におけるグリーンケミストリーの役割
- ・アジア太平洋における3Rを前進させるための官民連携（ラウンドテーブル形式対話）

我が国環境省からは、2016年5月にG7富山環境大臣会合にて採択された、G7として共通のビジョンを掲げ、国際的に協調して3Rや資源効率性に取り組むための「富山物質循環フレームワーク」を紹介した。

また、廃棄物処理の基本的な方向や災害廃棄物管理等に関する廃棄物処理法に基づく基本方針の変更について報告するとともに、循環型社会構築に向けた3つの基本的な指標の更新や、太陽光発電設備のリサイクル等の推進に向けたガイドラインの作成について情報提供を行った。

今回、官民連携を促進するためのラウンドテーブル形式対話が開催され、参加国政府と21の民間企業が参加した。民間企業は、各国政府の代表に対して、3R及び廃棄物処理に関する様々な分野における経験、専門性や技術的なノウハウを示し、対話を通じて様々なパートナーシップやビジネスチャンスを創造した。

会合の成果として、「持続可能な開発のための2030アジェンダの下アジア太平洋地域の資源効率的な社会の実現における循環経済の推進に向けたアデレード3R宣言」が採択された。

3．サイドイベント等

本フォーラムと並行して、下記のサイドイベントが開催された。

- ・アジア太平洋3R白書執筆委員会
- ・アジア3R市民ネットワーク会合
- ・アジア太平洋3R官民連携ワークショップ
- ・アジア太平洋3R国際展示会

4．その他

次回会合については、インドがホストすることが発表され、オーストラリアからインドへの引き継ぎセレモニーが行われた。